



目標 11「住み続けられるまちづくりを」 × 文化財



を活かしたまちづくり

in 須津地区

「持続可能な開発目標（SDGs）： Sustainable Development Goals」

の目標 11 は「住み続けられるまちづくりを」である。なぜ、文化財が「まちづくり」と関係するのか。富士市東部の須津地区で実践している文化財を活用したまちづくりの試みについて紹介する。

「まちづくり」と「古墳」の関係

須津地区でまちづくりに活かされている文化財は「古墳」である。多くの文化財が所在する須津地区には、古代の墓である古墳が 200 基近く集中して存在している。

その「須津古墳群」には、東海地方で最大規模の前方後方墳である国指定史跡「浅間古墳」や、県指定史跡の円墳「琴平古墳」、7 世紀に築かれた横穴式石室として県東部で最大規模の「千人塚古墳」など県内有数の古墳が存在する。

富士市教育委員会文化財課と須津地区では協働して様々な事業を実施し、「古墳」を活かした「まちづくり」を実践している。



▲ 須津古墳群の位置

地域内で循環し始めた文化財を活かした活動は、「住み続けられるまちづくりを」推進することにつながり、最終的には文化財を将来にわたって確実に遺していくことにもつながっている。

地区役員はお揃いの「浅間古墳 SDGs ポロシャツ」を着て活動し、須津小学校の児童は、古墳の魅力を発信する方法を提案し、地域内の店舗の協力で実現させる。古墳の調査も市と地区で協働して進めている。そのような活動から自らが地域の文化・歴史を深く知り、地域の魅力を考えるきっかけになっている。

地区の魅力を地区全体で考える

埋蔵文化財ニュース

2024 年（令和 6 年）
4 月 5 日（第 13 号）

富士市教育委員会
文化財課
富士市埋蔵文化財調査室

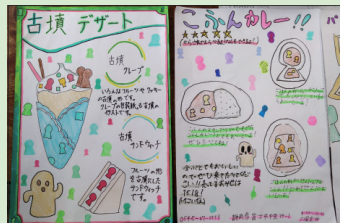
地域内で循環する活動

お揃いの古墳ポロシャツから地域の魅力を発信

古墳の魅力を伝える小学生のアイディア



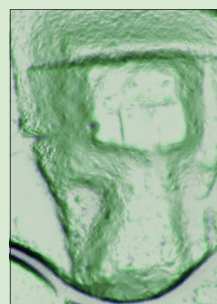
▼ 地区の有志（6 才～70 才代）で浅間古墳にある樹木の太さや高さを調査



須津地区のカフェで実現した「浅間古墳カレー」 (@ 1518)



空中レーザー測量で図画された浅間古墳の前方後方形の墳形

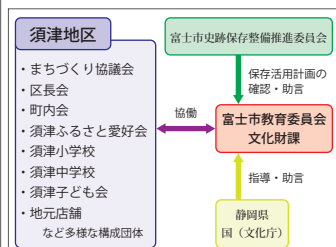


令和 5 年度文化財課と須津地区による

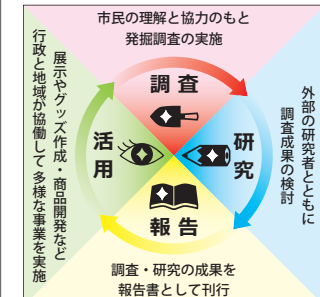
須津古墳群での調査・活用事業

令和 5 年 4 月	「富士市史跡保存整備推進委員会」設置 浅間古墳保存活用計画の策定に着手
4 月	千人塚古墳 整備工事に向けた実施設計を開始
7 月	千人塚古墳 周溝 発掘調査
7 月	須津 J・第 12 号墳 発掘調査
7 月	千人塚古墳 現地見学会
7 月	浅間古墳 市内小学校社会科主任研修会を実施
8 月	第 1 回 富士市史跡保存整備推進委員会
9 月	浅間古墳 現況測量
9 月	浅間古墳 須津小学校・東小学校の 6 年生 現地見学
11 月	千人塚古墳 敷地西側発掘調査
12 月	『埋蔵文化財ニュース』第 11 号（千人塚古墳特集）発行
12 月	須津地区文化祭 発掘体験掘るワングランプリ 須津小学校 6 年生古墳ポスター発表
12 月	須津小学校 6 年生 須津古墳群についての調べ学習 発表・講評 小学生の提案による「浅間古墳カレー」が地元カフェで実現
令和 6 年 2 月	第 2 回 富士市史跡保存整備推進委員会
3 月	文化庁主任文化財調査官による現地指導
3 月	浅間古墳 富士市東部地域をめぐるバスツアーで視察
3 月	浅間古墳 樹木調査

文化財の保存・活用に関わる連携の体制



埋蔵文化財を活かす 4 つの柱
【調査・研究・報告・活用】



「文化財を保存・活用し、後世に伝える」活動のシンボルマーク（富士市文化財課作成）
「浅間古墳」の墳形の前方後方形を SDGs の 17 色で描き、目標 11「住み続けられるまちづくりを」のアイコンを添えた

